

都市再生整備計画

かみ かわしゅうへん き
上の川周辺地区2期

おおさかふ すいたし
大阪府 吹田市

令和8年4月

事業名	確認
都市構造再編集集中支援事業	■
都市再生整備計画事業(社会資本整備総合交付金)	□
都市再生整備計画事業(防災・安全交付金)	□
まちなかウォークアブル推進事業	□

都市再生整備計画の目標及び計画期間

様式(1)-②

都道府県名	大阪府	市町村名	すいたし 吹田市	地区名	かみかわしほうへんくき 上の川周辺地区(2期)	面積	130	ha							
計画期間	令和	8	年度	～	令和	12	年度	交付期間	令和	8	年度	～	令和	12	年度

目標
 大目標：地域を繋ぐみどりと防災のネットワークを整備して、安全・安心で健康を増進できるにぎわいのあるまちづくり
 目標1：みどりの骨格(神崎川)から垂水上池公園まで続くみどりのネットワーク軸をみどりの拠点(関西大学)まで避難路を兼ねた高質な歩行空間で延伸し、心がやすらぎ、人と地域と自然を育む
 目標2：豊津駅と公園などの公共施設のほか大和大学を結ぶ歩行空間を整備し、多様な多世代の活性化を図る
 目標3：ネットワーク軸の周辺の公園を整備する健康増進遊具等をウォーキングと複合的に活用することで市民の健康増進を図る

目標設定の根拠
 都市全体の再編方針(都市機能の拡散防止のための公的不動産の活用の方針)を含む、当該都市全体の都市構造の再編を図るための方針) ※都市構造再編集中支援事業の場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。
 本市は、大阪府に隣接して国土軸上に位置するという恵まれた立地条件に加え、市内全域が市街化区域かつDIDに指定され、住居系中心の用途地域を指定しており、平均人口密度は現在約106人/haで、今後もほぼ同水準が維持される見通しである。このような高密度な人口集積を背景に、市内に15箇所ある鉄道駅とそれを補完するバス停利用圏域により市内全域がほほカバーされ、公共交通にも恵まれた環境となっている。また、みどり豊かな市街地が形成されていること、長年にわたるまちづくりへの取組の成果等から、今日においても依然として人口が増加し続けている全国的にも恵まれた状況にある。今後、本市でも長期的には少子高齢化、人口減少社会に直面することとなるが、その状況においても、全国的に見ても高い水準の人口密度を維持し続ける見通しである。
 したがって、市街地の集約を意味する「コンパクトシティ」をめざす必要はないが、超高齢社会に対応し、健康寿命の延伸や、子育て環境の充実といった良好なまちづくりを推進していくために、民間事業者や国、大阪府等の様々な機関と連携し、都市機能増進に資する施設の適正な立地を誘導していくこと等が重要である。
 本市の立地適正化計画においては、市街地の集約化をめざした施設の立地誘導を行うものではなく、本市の都市計画マスタープランの基本理念である「暮らしに安心と快適性をもたらす定住のまちづくり」、「誇りと愛着の持てる活力あるまちづくり」を実現するため、本市全体の都市再生を促進していく。よって、住宅及び都市機能増進施設の立地の適正化に関する基本的な方針として、「快適で安心して暮らせる住みやすい居住環境の構築」、「地域ごとの価値を高める拠点機能の充実」、「日常的な生活を支える施設のさらなる充実」の3つを掲げ、居住誘導区域及び都市機能誘導区域の設定や誘導施設の設定を行う。
 都市機能の誘導等においては、単に都市機能を誘導するだけではなく、都市機能誘導の多面的な効果にも配慮しながら施策を展開していくことが必要で、誘導施設に位置づけている大学については、高度な学術・研究機能を有するとともに、広大なオープンスペースを有している。
 本市においては、ハード・ソフトの両面から大学と連携して災害時の対応を行うことも配慮事項としている。

まちづくりの経緯及び現状
 ●当該地区は、大正末期の北大阪電気鉄道(現阪急電鉄)の開通に伴い、郊外住宅地として開発され、閑静な住宅街として発展してきた。
 ●豊津駅から関大前駅までの区間は、阪急電鉄、上の川、府道吹田箕面線が並走し、その機能向上が求められているが、市街化の進展により用地確保が困難となっている。
 ●人口と高齢化率は増加傾向にあり、高齢者が気軽に運動ができる環境や外出しやすい環境の整備が望まれている。
 ●垂水神社の周辺にある樹林は自然性が高く、貴重なみどりとして残っており、桜並木のある糸田川は、まちなかでの貴重な緑と水の空間となっているが、まとまったみどりが乏しく、かつ、建物などの密集により、新たなみどりを増やすために用地を確保することが難しいため、立体的な緑化など創意工夫を施した緑化に取り組んでいくことが課題となっている。
 ●『防災アセスメント調査報告書(令和6年3月)』では、上町断層帯地震により、市域の木造建物のうちおよそ58%が全・半壊し、早朝で死者が約500人、罹災者は約11万人に達し、避難所生活者は約5万人になると想定されている。
 関西大学は、『地域防災計画(令和7年3月修正)』で一時的避難地、災害時用臨時ヘリポートに位置づけられている。本市と『災害に強いまちづくりにおける連携協定(平成25年5月)』を締結し、『国土強靱化貢献団体(平成28年7月)』の認証を受け、災害に備えた発電設備や備蓄倉庫の整備が進められ、上の川周辺地区(1期)では、地域緊急交通路である府道吹田箕面線と関西大学を結ぶ狭隘な市道を拡幅改良することで大型車による緊急物資の輸送等の支障を解消した。しかし、府道吹田箕面線は関西大学への避難路でもあり上の川周辺地区(1期)で整備した遊歩道に引続き、避難路として連続した歩行空間の確保が求められている。
 ●『吹田市都市計画マスタープラン(2015-2024)』のアンケート調査結果では、「歩行者や自転車が快適に利用できる道が整備されている」が、現状に対する満足度が低いうえに、今後の重要テーマとしての関心度が高い。本地区では、上の川に並走する府道吹田箕面線の歩行空間確保が、過去より吹田市の懸案となっている。
 ●上の川周辺地区(1期)の整備に伴い、地域の課題解決に向けた機運がさらに高まってきており、地元の協力のもと、地域課題の解消に向けたまちづくりを目指すこととした。
 ●大学踏切交差点においては、歩行者が滞留する場所も歩行空間も無く、府道吹田箕面線から右左折する車両と歩行者が踏切遮断機の前で混在しているほか、府道吹田箕面線から右左折しようと停車している車両の右側を追い越す車両が交通課題となっているが、用地が無く安全対策が困難となっている。
 ●片山公園や周辺の公共施設のほか近年開設された大和大学を含め集約されているものの、多様性に配慮した施設を繋ぐ歩行空間が整備されていない。多様で多世代の繋がりによる地域の活性化が図れていない。

課題
 ●『吹田市第2次みどりの基本計画(平成28年8月)』では、関西大学が「みどりの拠点」、神崎川が「みどりの骨格」、糸田川や上の川が「みどりの拠点・骨格をつなぐネットワーク軸」として位置づけられているが、遊歩道が整備された垂水上池公園より上流に位置する上の川の緑化が課題となっている。
 ●本市では、『健康づくり都市宣言(昭和58年10月)』、『健康すいた21(第3次)(令和4年3月)』の計画策定、北大阪健康医療都市のまちづくりなどの取組が進められている。『健康すいた21(第3次)(令和4年3月)』では、「出かける場所があることは、自然と体を動かすことや歩くことにつながるから、出かけたくなる魅力あふれる場の創出を進めます。」とされているが、上の川周辺では安全で安心な歩行空間が確保されていない。
 ●『地域防災計画(令和7年3月修正)』において一時的避難所及び災害時用臨時ヘリポートとして位置づけられ、今後も防災面での機能強化が期待される関西大学への避難路としてのアクセス道路が狭隘であるため、拡幅が必要である。
将来ビジョン(中長期)
 ●『吹田市第4次総合計画(2019-2028)』では、将来像を「まちの魅力や強みをさらに高めながら、確実に将来世代へつなぎ、だれもが安心してすこやかに快適に暮らし続けられるまちをめざす」こととしている。
 ●『都市計画マスタープラン(2015-2024)』では、基本理念を「暮らしに安心と快適性をもたらす定住のまちづくり」「誇りと愛着の持てる活力あるまちづくり」とし、豊津駅、関大前駅は地域拠点、上の川及び府道吹田箕面線は地域軸に位置づけられており、機能の充実を図ることとされている。
 ●『吹田市立地適正化計画(平成29年3月策定、平成31年3月、令和4年3月改定)』における都市機能の誘導によりめざす方向(千里山・関大前・豊津区域)としては、良好な居住環境や生活関連機能に加え、不足している子育て支援機能を強化するとともに、本市でも学生数の多い大学を有する区域として、若い世代がにぎわうまちの形成を進めることとされている。また、JR吹田・阪急吹田区域では学生等によるまちのにぎわいを強化し、昼間人口の増加と地域の活性化を進めることとされている。

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>【みどりのネットワーク軸の延伸】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学まで歩いて避難できる機能を兼ねた遊歩道を高質空間として整備するために河川を暗渠化して用地を創出する ・大学踏切交差点など周辺歩行者の安全対策となる交通機能の向上を図る ・地域の遊歩道めぐりを示す『ぶらっと吹田マップ(平成30年発行)』のネットワーク網を拡大し、周辺の既存公園に整備する健康増進の遊具等と連携した利用を促すことで健康増進を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 【基幹事業】(高質空間形成施設)上の川遊歩道整備 【基幹事業】(道路)大学踏切道交差点改良 【関連事業】千里山東山手円山1号線改良 【提案事業】(まちづくり活動推進事業)健康ウォーキングイベント
<p>【豊津駅と片山公園や公共施設のほか大和大学を安全・安心な歩行空間を通じて連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊津駅と片山公園や公共施設のほか大和大学を安全・安心に歩くことができる歩行空間に整備する ・多様で多世代の人が利用しやすいように休憩スペースや多目的トイレを動線に入れる 	<ul style="list-style-type: none"> 【基幹事業】(道路)出口町1号線ほか道路改良 【基幹事業】(片山北ふれあい公園・垂水上池公園)健康増進遊具等の整備 【基幹事業】(高質空間形成施設)出口町1号線ほか休憩施設整備 【関連事業】(片山公園)健康増進遊具等の整備
<p>【地域が繋がるウォーキングイベント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たなウォーキングコースと公園での健康増進遊具の利用等を提案し、関西大学を中心に地域が中心となるイベントを提案 	<ul style="list-style-type: none"> 【提案事業】(まちづくり活動推進事業)健康ウォーキングイベント 【協定制度等】関西大学敷地内に健康増進遊具、ロコモチェック等の設置
<p>その他</p>	
<p>●都市景観への配慮</p> <p>吹田市では、潤いがあり、地域の特色ある景観づくりを総合的・計画的に推進するために、平成5年3月に、『吹田市都市景観形成基本計画』を策定しました。その後、環境と共生するまちづくりや安心・安全のまちづくり、近年の市内各地での市民活動の高まりなど、総合的なまちづくりの中で景観形成を考えていくことが必要とされ、平成16年6月に、『景観法』が制定されました。本市では、そのことをうけ、『吹田市都市景観形成基本計画(平成5年3月)』の見直しを行い、地域らしさと潤いある景観を形成し、快適な暮らしの環境の創造に資するとともに、市民、事業者、専門家等及び行政の協働による取組により、次代につなぐ良好な景観を「まもり、つくり、はぐくむ」ための基本的な方向性を示すものとして『吹田市景観まちづくり計画(令和4年4月)』を改訂しています。上の川周辺地区(1期)に引き続き、上の川周辺地区(2期)においても、高質空間の形成にあたり地域の特性に配慮した景観を形成するため吹田市景観アドバイザーの意見を求める等して配慮する予定です。</p> <p>●関西大学との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害に強いまちづくりにおける連携協定(平成25年5月10日) ・関西大学周辺まちづくりに関する包括連携協定「吹田市・大阪府茨木土木事務所・阪急電鉄株式会社・学校法人関西大学」(平成28年3月31日) 	

目標を達成するために必要な交付対象事業等に関する事項(都市構造再編集中支援事業)

様式(1)-④-1

交付対象事業費	3,985	交付限度額	1,992.5	国費率	0.5
---------	-------	-------	---------	-----	-----

「都市構造再編集中支援事業」を活用した場合、本様式を使用すること

(金額の単位は百万円)

基幹事業	事業	細目	事業箇所名	事業主体	直/間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体事業費	交付期間内事業費	うち官負担分	うち民負担分	交付対象事業費	費用便益比B/C
							開始年度	終了年度	開始年度	終了年度						
	道路		大学踏切道交差点改良	吹田市	直	60m	R7	R12	R8	R12	758	758	758		758	-
	道路		出口町1号線ほか改良	吹田市	直	400m	R7	R8	R8	R8	3	3	3		3	-
	公園		健康増進遊具等の整備	吹田市	直	2公園	R10	R12	R10	R12	15	15	15		15	-
	古都保存・緑地保全等事業															
	河川															
	下水道															
	駐車場有効利用システム															
	地域生活基盤施設	広場														
	高質空間形成施設		上の川遊歩道整備	吹田市	直	350m	R7	R12	R8	R12	3,205	3,205	3,205		3,205	-
	高質空間形成施設		出口町1号線ほか	吹田市	直	300m	R11	R11	R11	R11	2	2	2		2	-
	高次都市施設	地域交流センター														
		観光交流センター														
		テレワーク拠点施設														
		賑わい・交流創出施設														
		賑わい・交流創出施設(地域資源活用型)														
		子育て世代活動支援センター														
		複合交通センター														
	誘導施設	医療施設														
		社会福祉施設														
		教育文化施設														
		子育て支援施設														
		元地の管理の適正化														
	広域連携誘導施設															
	既存建造物活用事業	高次都市施設														
	土地区画整理事業															
	市街地再開発事業															
	住宅街区整備事業															
	バリアフリー環境整備事業															
	優良建築物等整備事業															
	住宅市街地総合整備事業															
	街なみ環境整備事業															
	住宅地区改良事業等															
	都心共同住宅供給事業															
	公営住宅等整備															
	都市再生住宅等整備															
	防災街区整備事業															
	復興促進事業															
	エリア価値向上整備事業															
	こどもまんなかまちづくり事業															
	暑熱対策事業															
	合計										3,983	3,983	3,983	0	3,983	

都市再生整備計画全体のB/Cを算出する場合、記入

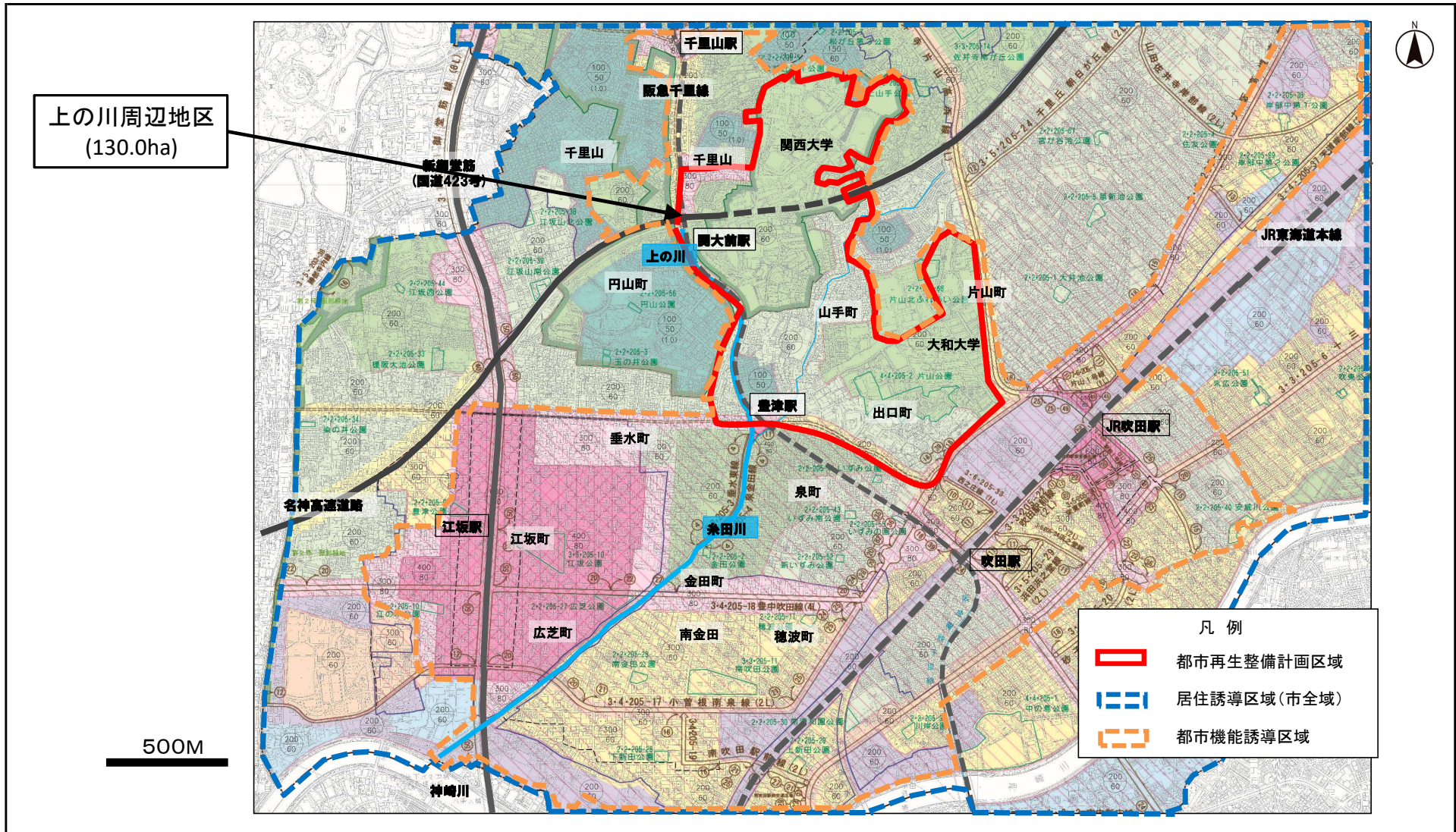
…A

提案事業	事業	細目	事業箇所名	事業主体	直/間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体事業費	交付期間内事業費	うち官負担分	うち民負担分	交付対象事業費	
							開始年度	終了年度	開始年度	終了年度						
	地域創造支援事業															
	事業活用調査															
	まちづくり活動推進事業	健康ウォーキングイベント	上の川・系田川ウォーキングイベント	吹田市	直				R12	R12		1	1		1	
		健康ウォーキングイベント	大学連携ウォーキングイベント	吹田市	直				R12	R12	2	1	1	1	1	
	合計										2	2	2	1	2	

…B

上の川周辺地区(2期)(大阪府吹田市)

面積	130 ha	区域	山手町、出口町、片山町の一部、円山町の一部、千里山東の一部
----	--------	----	-------------------------------



上の川周辺地区2期(大阪府吹田市) 整備方針概要図(都市構造再編集中支援事業)

目標	大目標: 地域を繋ぐみどりと防災のネットワークを整備して、安全・安心で健康を増進できるにぎわいのあるまちづくり 目標1: みどりの骨格(神崎川)から垂水上池公園まで続くみどりのネットワーク軸をみどりの拠点(関西大学)まで避難路を兼ねた高質な歩行空間で延伸し、心がやすらぎ、人と地域と自然を育む 目標2: 豊津駅と公園などの公共施設のほか大和大学を結ぶ歩行空間を整備し、多様な多世代の活性化を図る 目標3: ネットワーク軸の周辺の公園に整備する健康増進遊具等をウォーキングと複合的に活用することで市民の健康増進を図る	代表的な指標	遊歩道の歩行者交通量 (人/12h)	565 (R6年度)	→	1051 (R12年度)
			交通事故の減少 (件)	2 (R5年度)	→	0 (R12年度)
			地域が主催するイベント (件)	1 (R7年度)	→	2 (R12年度)

